



## 平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月6日

上場取引所 東

上場会社名 京浜急行電鉄株式会社  
 コード番号 9006 URL <http://www.keikyu.co.jp>  
 代表者 (役職名) 取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月8日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 石渡 恒夫  
 (氏名) 廣川 雄一郎

TEL 03-3280-9135

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	216,406	0.9	14,435	8.4	10,181	15.6	7,660	181.8
24年3月期第3四半期	214,555	△2.8	13,312	△13.2	8,806	△16.8	2,718	△28.5

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 8,342百万円 (207.2%) 24年3月期第3四半期 2,715百万円 (△8.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	13.90	—
24年3月期第3四半期	4.93	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	976,387	192,109	19.6
24年3月期	964,303	187,187	19.4

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 191,667百万円 24年3月期 186,752百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	3.00	—	3.00	6.00
25年3月期	—	3.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	311,000	5.3	18,000	△5.2	12,000	△6.8	8,000	94.2	14.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	551,521,094 株	24年3月期	551,521,094 株
25年3月期3Q	305,742 株	24年3月期	184,959 株
25年3月期3Q	551,274,512 株	24年3月期3Q	551,346,557 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

業績予想に関する事項は、添付資料4ページ「1. (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 補足情報	11
【第3四半期連結損益計算書(前年同期比較)】	11
【セグメント情報(前年同期比較)】	12
【鉄道運輸成績】	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）のわが国経済は、東日本大震災の復興需要などが下支えしているものの、欧州政府債務危機などを背景とした海外景気の下振れや、デフレの長期化などにより、先行きは不透明な状況で推移しました。

このような事業環境のなか、当社グループは、重要な戦略拠点である品川、羽田空港等を中心に各事業で営業を推進するとともに、経営の効率化を図り、経営基盤の強化に努めました。また、公共交通機関をはじめとしたライフラインを担う企業集団として、引き続き安全・安心、良質なサービスの提供に努めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の営業収益は2,164億6百万円（前年同期比0.9%増）、営業利益は144億3千5百万円（前年同期比8.4%増）、経常利益は101億8千1百万円（前年同期比15.6%増）、四半期純利益は76億6千万円（前年同期比181.8%増）となりました。

次に、セグメント別の業績についてご報告いたします。

#### 交通事業

鉄道事業では、10月に、京急蒲田駅付近連続立体交差事業の進捗に伴い事業区間全線の高架化が完了し、28か所の踏切道を解消し安全性を向上させるとともに、ダイヤ改正を実施しました。事業の着手から12年をかけて空港線の起点である京急蒲田駅付近の高架化がようやく完了したことで、羽田空港アクセスを大幅に向上するとともに、全線において利便性のさらなる向上を図りました。また、空港線の需要拡大に努め、海外の旅行会社などと共同で国内外において積極的に旅客誘致を図るとともに、訪日旅客を対象に企画商品を販売しました。さらに、「京急&東京スカイツリー周辺散策フリーきっぷ」を発売するなど、当社線の利用促進に努めました。このほか、3月の交通系ICカードの全国相互利用サービス開始に向け、駅務機器の改修等を進めました。

また、引き続き安全対策を最重要課題とし、連続立体交差化工事を進め、京急蒲田駅付近では駅舎や切替地点等の工事を進めたほか、大師線では地下化工事を推進しました。さらに、高機能ATS(C-ATS)の機能向上により全線において踏切道防護システムの運用を開始しました。このほか、全社員の安全意識の高揚を図るため、経営トップによる現場の巡視を行ったほか、警察や消防と連携し実際に発生した事故を想定した復旧訓練を実施しました。また、東日本大震災の経験を踏まえ、各駅において避難誘導場所を記した周辺案内図を掲出したほか、お客さま向けの飲料水等の備蓄を完了しました。

乗合・貸切自動車事業では、京浜急行バス(株)および川崎鶴見臨港バス(株)は、羽田空港など需要が高い地域への輸送力増強に対応するため、営業所の新設、建替を実施しました。また、品川駅、横浜駅および川崎駅から木更津市に開業した大型商業施設に向かう路線の運行を開始しました。さらに、京浜急行バス(株)は、羽田空港アクセスの向上を図るため、羽田空港～錦糸町駅・東京スカイツリータウン線の運行を開始しました。このほか、横浜駅(YCAT)～葉山線の運行を開始し、葉山地区の利便性向上を図ったほか、品川駅から御殿場市の大型商業施設に向かう路線の運行を開始しました。

タクシー事業では、羽田空港国際線ターミナルと各地を結ぶ定額運賃制タクシーの対象地区を鎌倉、逗子および葉山地区まで拡大し、新規顧客の開拓を図りました。

以上の結果、交通事業の営業収益は858億5千5百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益は98億6千1百万円（前年同期比16.2%増）となりました。

## 不動産事業

不動産販売業では、当社は、他社と共同で、大師線港町駅前の大規模分譲マンション「リヴァリエ」の3月入居開始に向け、1棟目の販売を進めるとともに、2棟目の建設工事に着手しました。また、当社は、「京急ニューシティ湘南佐島なぎさの丘」分譲地や「京急ニュータウン野比海岸」分譲地などにおいて、引き続き宅地の販売を行いました。さらに、京急不動産(株)は、「パームヒルズ京急富岡」分譲地など沿線各地で、立地特性を活かした宅地・戸建住宅を販売したほか、分譲マンション「プライム横浜生麦」および「プライム新川崎」の販売を開始しました。

不動産賃貸業では、重要な戦略拠点である品川において、複合施設「SHINAGAWA GOOS」などが好調に稼働したほか、品川駅前の優良な土地建物を取得し、賃貸事業の収益強化を図りました。また、京急第1ビル高層棟のリニューアル工事が完了しました。

しかしながら、京急第1ビル高層棟のリニューアル工事に伴う賃貸収入の減少などにより、不動産事業の営業収益は170億7千3百万円（前年同期比12.0%減）、営業損失は6千7百万円（前年同期は営業利益25億9千2百万円）となりました。

## レジャー・サービス事業

ホテル業では、ホテル グランパシフィック LE DAIBAは、お台場地区に新規開業した大型商業施設の利用者の取り込みを図り、コンセプトルームの宿泊プランを販売し、好調に稼働しました。また、国際会議等に対応するため、高層階の宴会場の改装に着手するなど、新規顧客の獲得に努めました。また、京急EXインは、「京急EXイン 品川駅前」をはじめ、各館が好調に稼働しました。

レジャー施設業では、京急開発(株)は、羽田空港の早朝の航空便にあわせて「天然温泉 平和島」から運行している羽田空港国際線ターミナルへの無料バスを増発するなど、施設の利用促進を図りました。

以上の結果、レジャー・サービス事業の営業収益は304億5千2百万円（前年同期比5.8%増）、営業利益は25億1千4百万円（前年同期比495.7%増）となりました。

## 流通事業

百貨店業では、(株)京急百貨店は、集客力の強化を図るため、上大岡駅に直結する1階を改装し、好調に推移しました。また、期間限定で実施していたインターネット販売を拡大し、常設のオンラインショップとして運営を開始するなど、販売機会の拡大に努めました。

ストア業では、(株)京急ストアは、新業態の小型店舗「京急ストア グロッサリーマーケット 伊勢佐木町店」を開業したほか、新川崎店などが引き続き好調に推移しました。また、ユニオネックス(株)は、前年に開業したもとまちユニオン六本木店をはじめ、各店で商品構成の見直しを行うなど、収益力の強化に努めました。さらに、(株)京急ストアおよびユニオネックス(株)は、合併に向け本社機能を集約し、経営の効率化を図りました。

(株)京急ショッピングセンターは、周辺環境の変化に対応し、新規顧客の獲得を図るため、ウィング新橋およびウィング高輪でテナントの入れ替えを行いました。

物品販売業では、(株)京急ステーションコマースは、セブン-イレブンへの転換により駅売店が好調に推移しました。また、横浜駅構内でテナントを入れ替え、新規顧客の獲得に努めました。

以上の結果、流通事業の営業収益は817億6千9百万円（前年同期比0.8%増）、営業利益は7億1千7百万円（前年同期比29.9%増）となりました。

## その他

京急建設(株)および京急電機(株)は、引き続き鉄道の安全対策工事等を行いました。また、(株)京急ファインテックは、車両の保守、更新工事等を行いました。

以上の結果、その他の事業の営業収益は331億2千3百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益は12億7千5百万円(前年同期比17.1%増)となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、分譲土地建物の増加などにより前連結会計年度末と比べ120億8千4百万円増加しました。

負債は、コマーシャル・ペーパーの発行などにより前連結会計年度末と比べ71億6千2百万円増加しました。

また、純資産は、剰余金の配当による減少はありましたが、四半期純利益の計上などにより前連結会計年度末と比べ49億2千1百万円増加しました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

現時点における連結業績は概ね想定の範囲内で推移していることから、平成25年3月期の業績見通しについては、平成24年11月7日に開示した内容を変更しておりません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

減価償却方法の変更

当社および連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間から平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による当第3四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,134	29,585
受取手形及び売掛金	12,581	13,455
商品及び製品	2,487	2,750
分譲土地建物	85,527	99,387
仕掛品	2,362	4,404
原材料及び貯蔵品	553	591
繰延税金資産	1,818	1,969
その他	6,010	8,073
貸倒引当金	△50	△30
流動資産合計	143,427	160,187
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	294,283	299,888
機械装置及び運搬具（純額）	39,664	38,659
土地	149,000	157,085
建設仮勘定	247,186	231,111
その他（純額）	7,287	6,698
有形固定資産合計	737,422	733,442
無形固定資産		
のれん	3,901	3,723
その他	6,875	6,224
無形固定資産合計	10,776	9,948
投資その他の資産		
投資有価証券	35,720	38,319
長期貸付金	2,318	2,188
繰延税金資産	10,902	9,202
その他	23,908	23,266
貸倒引当金	△173	△167
投資その他の資産合計	72,677	72,809
固定資産合計	820,876	816,200
資産合計	964,303	976,387

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	34,067	24,943
短期借入金	136,002	144,354
コマーシャル・ペーパー	—	26,000
1年内償還予定の社債	171	309
未払法人税等	3,432	1,690
繰延税金負債	92	33
前受金	5,307	6,110
賞与引当金	1,312	1,231
役員賞与引当金	128	—
その他	25,486	26,184
流動負債合計	206,000	230,858
固定負債		
社債	100,394	110,085
長期借入金	265,830	240,247
繰延税金負債	587	722
退職給付引当金	6,342	6,817
役員退職慰労引当金	726	763
長期前受工事負担金	169,595	167,080
その他	27,638	27,703
固定負債合計	571,115	553,420
負債合計	777,115	784,278
純資産の部		
株主資本		
資本金	43,738	43,738
資本剰余金	44,157	44,157
利益剰余金	98,644	102,996
自己株式	△132	△224
株主資本合計	186,408	190,669
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	344	998
その他の包括利益累計額合計	344	998
少数株主持分	435	441
純資産合計	187,187	192,109
負債純資産合計	964,303	976,387



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
四半期連結損益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
営業収益	214,555	216,406
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	176,191	176,755
販売費及び一般管理費	25,050	25,215
営業費合計	201,242	201,970
営業利益	13,312	14,435
営業外収益		
受取利息	75	67
受取配当金	362	342
持分法による投資利益	334	505
その他	867	1,001
営業外収益合計	1,640	1,915
営業外費用		
支払利息	5,814	5,533
その他	332	636
営業外費用合計	6,146	6,169
経常利益	8,806	10,181
特別利益		
固定資産売却益	—	4,895
工事負担金等受入額	151	50
特別利益合計	151	4,945
特別損失		
減損損失	—	1,696
固定資産除却損	231	1,127
固定資産圧縮損	151	50
投資有価証券評価損	390	—
特別損失合計	773	2,873
税金等調整前四半期純利益	8,184	12,253
法人税、住民税及び事業税	4,476	3,312
法人税等調整額	965	1,253
法人税等合計	5,441	4,565
少数株主損益調整前四半期純利益	2,742	7,687
少数株主利益	23	27
四半期純利益	2,718	7,660

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,742	7,687
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△26	654
その他の包括利益合計	△26	654
四半期包括利益	2,715	8,342
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,692	8,314
少数株主に係る四半期包括利益	23	27

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	交通事業	不動産事業	レジャー ・サービス 事業	流通事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
営業収益								
外部顧客への営業収益	83,273	14,379	25,562	79,835	11,503	214,555	—	214,555
セグメント間の内部営業収益又は振替高	1,531	5,025	3,223	1,294	18,671	29,746	△29,746	—
計	84,805	19,404	28,786	81,130	30,175	244,301	△29,746	214,555
セグメント利益	8,484	2,592	422	552	1,089	13,140	171	13,312

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設・土木・電気設備の工事、輸送用機器の修理・改造、ビル管理業務等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの営業収益および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	交通事業	不動産事業	レジャー ・サービス 事業	流通事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
営業収益								
外部顧客への営業収益	84,214	11,936	27,444	80,651	12,158	216,406	—	216,406
セグメント間の内部営業収益又は振替高	1,640	5,137	3,007	1,117	20,964	31,867	△31,867	—
計	85,855	17,073	30,452	81,769	33,123	248,274	△31,867	216,406
セグメント利益又は損失(△)	9,861	△67	2,514	717	1,275	14,300	134	14,435

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設・土木・電気設備の工事、輸送用機器の修理・改造、ビル管理業務等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レジャー・サービス事業」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、1,696百万円であります。

- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

## 4. 補足情報

## 【第3四半期連結損益計算書(前年同期比較)】

	前第3四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
I 営業収益	214,555	216,406	1,851	0.9
II 営業費	201,242	201,970	728	0.4
1. 運輸業等営業費及び売上原価	176,191	176,755	563	0.3
2. 販売費及び一般管理費	25,050	25,215	164	0.7
営業利益	13,312	14,435	1,122	8.4
III 営業外収益	1,640	1,915	275	16.8
1. 受取利息	75	67	△7	△10.5
2. 受取配当金	362	342	△20	△5.7
3. 持分法による投資利益	334	505	170	51.0
4. その他	867	1,001	133	15.4
IV 営業外費用	6,146	6,169	22	0.4
1. 支払利息	5,814	5,533	△281	△4.8
2. その他	332	636	304	91.5
経常利益	8,806	10,181	1,375	15.6
V 特別利益	151	4,945	4,793	—
1. 固定資産売却益	—	4,895	4,895	—
2. 工事負担金等受入額	151	50	△101	△66.9
VI 特別損失	773	2,873	2,099	271.4
1. 減損損失	—	1,696	1,696	—
2. 固定資産除却損	231	1,127	895	387.1
3. 固定資産圧縮損	151	50	△101	△66.9
4. 投資有価証券評価損	390	—	△390	△100.0
税金等調整前四半期純利益	8,184	12,253	4,069	49.7
法人税、住民税及び事業税	4,476	3,312	△1,164	△26.0
法人税等調整額	965	1,253	287	29.8
法人税等合計	5,441	4,565	△876	△16.1
少数株主損益調整前四半期純利益	2,742	7,687	4,945	180.3
少数株主利益	23	27	4	17.3
四半期純利益	2,718	7,660	4,941	181.8

## 【セグメント情報(前年同期比較)】

	前第3四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
交通事業				
営業収益	84,805	85,855	1,050	1.2
営業利益	8,484	9,861	1,376	16.2
不動産事業				
営業収益	19,404	17,073	△2,331	△12.0
営業利益又は営業損失(△)	2,592	△67	△2,660	—
レジャー・サービス事業				
営業収益	28,786	30,452	1,666	5.8
営業利益	422	2,514	2,091	495.7
流通事業				
営業収益	81,130	81,769	639	0.8
営業利益	552	717	165	29.9
その他				
営業収益	30,175	33,123	2,948	9.8
営業利益	1,089	1,275	186	17.1
合計				
営業収益	244,301	248,274	3,972	1.6
営業利益	13,140	14,300	1,159	8.8
調整額				
営業収益	△29,746	△31,867	△2,121	—
営業利益	171	134	△37	△21.6
四半期連結損益計算書計上額				
営業収益	214,555	216,406	1,851	0.9
営業利益	13,312	14,435	1,122	8.4

## 【鉄道運輸成績】

科 目	前第3四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
旅客運輸収入				
定期	22,157	22,110	△46	△0.2
定期外	32,572	33,137	565	1.7
計	54,729	55,248	518	0.9
輸送人員	千人	千人	千人	%
定期	183,146	183,590	444	0.2
定期外	141,371	143,627	2,256	1.6
計	324,517	327,217	2,700	0.8